

先日ある句会で席題に「秋刀魚」が出た。そうするとメンバー十二名のうち、三名が「亡き父が秋刀魚の腸を好む」とか、「腸をそのままに秋刀魚を焼く」とか、「腸がほろ苦し」など腸を好むような句が続いた。こういう俳句が並ぶのは佐藤春夫の「秋刀魚の歌」の影響を受けているのだろうか。それはそれで俳句に問題があるわけではない。

一方、最近話題になっているのが、海のマイクロプラスチックである。プラスチックゴミが海に流れ着き、海で細かく砕かれ、マイクロプラスチックとなって、魚の胃袋に入る環境汚染である。このマイクロプラスチックは「PM10」以下のもので、いわゆる海のプラスチックスープとも言われている。そのマイクロプラスチックを飲み込んでいる魚が日本人の好きな魚であればよけい問題である。

昔は秋刀魚などのハラワタを食べるのは当たり前だったが、マイクロプラスチックが原因で、要注意である。例えば、サメのような寿命の長い魚の場合、胃袋を裂くと、明らかにマイクロプラスチックが凝縮されて残っており、時にはプラスチックと判明出来るその物を飲み込んでいるという。秋刀魚のような一年魚の場合は安全かというところやはり危険だという。

そしてこのマイクロプラスチックは除去出来ない。ただ今後はプラスチックゴミを海に流れるのをなくす方法しかない。きわめて深刻な状況である。

以上のマイクロプラスチック問題は、三重県環境学習情報センターの所長から聞いたものです。所長はこの九月、宗像市で開催された「宗像国際環境100人会議」で議論されたそうです。宗像市という今年世界遺産登録された 神宿る島宗像・沖ノ島を擁する市で

ある。そういう神宿る島にもマイクロプラスチック問題が押し寄せ  
ている現状です。

ということ、俳句で詠むように秋刀魚の腸を食べることに躊躇  
する。

ところで俳句検索すると、結構秋刀魚の腸を食べるとい句が多  
い。

はらわたをアテに残して飲む秋刀魚

はらわたで二合は呑める秋刀魚じゃろ

ハイヒール脱いで秋刀魚の腸うまし

はらわたを残して秋刀魚喰う男

秋刀魚食ぶ苦き腸までも食ぶ

こんな句ばかりでなく、著名俳人の秋刀魚の俳句も並べてみたい。

秋刀魚焼く煙の中の妻を見に 山口誓子

火だるまの秋刀魚を妻が食はせけり 秋元不死男

秋刀魚焼かるおのれより垂るあぶらもて 木下夕爾

秋刀魚焼くレモンのやうな月が出て 西村和子

別々にもどり秋刀魚の 一ッ灯に 中山純子

全長に回りたる火の秋刀魚かな 鷹羽狩行